

## 2019年3月度(第78期)中間仮決算ダイジェスト

### ■売上高

**19,335百万円**

売上高は、前期より減少し19,335百万円(対前年同期比87.0%)となった。要因として、手持工事の出来高進捗率が影響したためである。繰越工事高は63,194百万円(対前年同期比116.7%)となった。

損益計算書の概要

(単位:百万円)

### ■営業利益

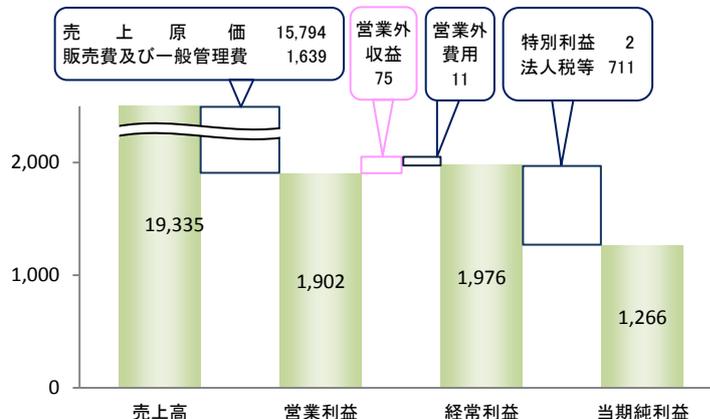
**1,902百万円**

### ■経常利益

**1,976百万円**

### ■当期純利益

**1,266百万円**



利益は、売上総利益が減少したこと等により、営業利益で1,902百万円(対前年同期比75.3%)、経常利益は有価証券配当金等で、1,976百万円(同76.6%)、当期純利益で1,266百万円(同75.8%)となった。

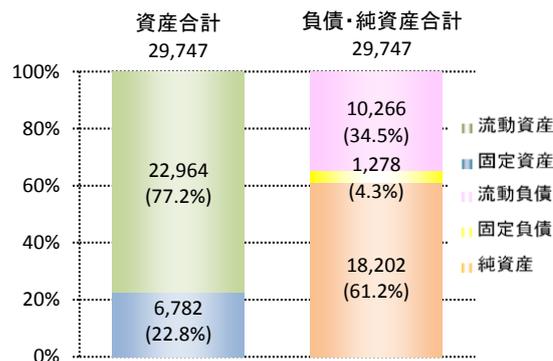
貸借対照表の概要

(単位:百万円)

### ■自己資本比率

**61.2%**

自己資本比率は61.2%(前年末比1.8%増)となった。総資産の残高は29,747百万円(前年末比770百万円増)となった。主因として、独身寮建設により土地等が増加したためである。負債の残高は11,544百万円(前年末比227百万円減)となった。主因として、仕入債務が減少したためである。純資産は18,202百万円と前年末と比べ997百万円増加している。



### ■キャッシュフロー

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、主に事業収支が引き続き堅調に推移したことによって資金が増加となった。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、主に有価証券の購入により資金が減少となった。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、主に配当金支払により資金が減少となった。

結果、前期末より560百万円資金が減少となった。

現金及び同等物 第77期 期末残高	営業活動CF	投資活動CF	財務活動CF	現金及び同等物 第78期 3月期残高
9,287	2,151	▲ 2,512	▲ 199	8,727

(単位:百万円)

### ■通期予測

第78期の本決算は、手持工事量の最適化を図ったことで、売上高は378百万円減少の41,072百万円となり、利益は手持工事の利益率低下に伴い、営業利益は1,808百万円、経常利益は1,927百万円、当期純利益は1,219百万円となる見込みである。

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
41,072	1,808	1,927	1,219

(単位:百万円)